

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2010
3.31

19号

巻頭 百年の人づくり……1 / 秩父シンポジウム開催「森を語ろう」……2-4 / キモトタケウラ……5
/ エコサロン冬の講座講演会……6-7 / 和名倉山森づくり報告……8-9 / 冷蔵苗製作報告……10 /
2010年活動スケジュール……11

百年の人づくり

理事長 内藤 勝久

百年の森づくり運動を提唱して4年が過ぎ、県内各地で様々な森づくりが始まっている。活動の輪が広がり嬉しい限りだが、しかし手放しで喜んでばかりいられない。それはいかんにして子供たちに私たちの志を伝えることができるか、つまりいかにして後継者を育成することができるかという問題が未解決だからである。

後継者の育成策をいろいろ思案していたとき、島崎常務理事からまたとない提案が届いた。秩父市の地域振興事業助成金を使って、市内の中学生を対象にした秩父シンポジウムを開催してどうかという内容であった。植栽に近いという地理的条件に加え、以前から植栽に参加してくれた子供たちが多くことから、秩父こそ後継者づくりの牽引的役割を果たす最適の土地柄であると直感し、すぐに秩父に飛んだ。彼の案内で、秩父市の教育長、財務部長を訪ね正式に協力をお願いし快諾いただいたが、それも我々の活動が地元の方々にも広く認知されるきっかけとなった、一昨年開催のパネルの展示会が大きな要因となっているように思う。

昨年9月26日に開催の第1回秩父シンポジウムは、基調講演を「牡蠣の森を慕う会」代表の畠山重篤さん、パネラーに秩父市長久喜邦康さん、秩父農林振興センター所長の大島誠一郎さん、水資源機構荒川ダム総合管理事務所長の松枝修治さん、日本大学生物資源科学部専任講師の鍛代邦夫さん。

。それに代表質問の浅見佳枝さん（影森中3年）、大嶋那意さん（秩父第一中3年）、新井秀佑さん（同上）、新井 純さん（秩父第二中）、松本朋子さん（同上）。費用は主に秩父市の地域振興事業助成金。秩父市PTA連合会の後援もいただいた。準備万端、会場は立ち見が出るほどの盛況と思いきや、新型インフルエンザの影響で、入場者は予定の半数程度。中学生の参加は代表質問の5人のみという寂しい結果となった。しかし秩父シンポジウムは最低3回続けなければ意味はないと私は考えていたので失望はなかった。

しばらくして嬉しいニュースが飛び込んできた。影森中学校の2年生66名が環境教育の一環として山に木を植えたので、当会の支援が欲しいとの要請である。私はすべての予定をキャンセルし、役員と一緒に子供たちの植栽のお手伝いをさせてもらった。

さらにシンポジウムの報告書が市内の各中学校に届けられると、森づくりに従来から積極的であった3校（生徒数合計150名）から、今年もシンポジウムを開催して欲しいとの要望が島崎常務理事のもとに寄せられた。前回の問題点を洗い出し、中学生を対象にした楽しい企画を、じっくり時間をかけてまとめ上げたいと思う。

さて春になると子供の頃に歌った「春の小川」を思い出す。そこで歌われている

るような、岸のスマレヤレンゲの花のある風景は、今ではすっかり姿を消してしまったが、いったい春の小川にも水源はあるのだろうか。小川は里川とも呼ばれるので、たぶん里山が水源林。里川は集まって支流となり、最後は東京湾に注ぐ。里山も立派な荒川の水源林だ。

私の手元に荒川水系の詳細な地図がある。これには118本の支流が記載されているので里川・里山はその数倍はあろう。皆で手分けして早急にそれらの場所を特定し、里山づくりに賛同していただける学校を探したい。里山を百年の森づくりの対象に加えれば、百年の森づくり運動と後継者の育成を同時に推進することができる。一方、我々の活動のシンボルである荒川最大の水源林「和名倉山」は、別のアプローチが必要である。まず鍛代先生から寄託された2,000本のブナの苗木を毎年400本植栽し、5年で完了させたい。そのためにブナの適地の調査、獣害対策、地帯え、荷揚げなど体制づくりを急ぎたい。同時に、鹿がシラビソの樹皮を食べてしまう食害で、シラビソの立ち枯れが広がっているの、ワークの折に実態を調査したい。和名倉の森を守ることはつくること以上に大切なのでしっかりと対策を講ずる必要がある。

このような取り組みを総合的に推進し、荒川の源流域の秩父の山や里山の森の恵みを東京湾までお届けしたいものである。

秩父シンポジウム開催 「森を語ろう」

百年の森づくりの会の活動が始まり13年目を迎え、我々のフィールドワークである荒川源流域の将来の環境を考えるため、9月26日（土）秩父市歴史文化伝承館において、中学生の皆さんとともに「森を語る」秩父シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、百年の森づくりの会が主催し、秩父市PTA連合会の共催、秩父市、秩父市教育委員会、埼玉県秩父農林振興センター、独立行政法人水資源機構の後援をいただき開催することができました。

まず、当会内藤勝久理事長が開催挨拶をした後、久喜邦康秩父市長、秩父教育委員会久保忠太郎教育長、秩父PTA連合会大嶋洋一会長からご挨拶をいただきました。

第一部は、基調講演として「牡

蠣の森を慕う会」代表畠山重篤氏に「森は海の恋人」と題してお話を伺いました。（講演要旨は後述）

第二部では、荒川源流域の森林や水に関わっておられる各専門家のパネリストの皆さんと地元中学生の皆さんによるパネルディスカッションを開催しました。出席くださった方々は以下の通りです。

（パネリストの皆さん）

- 畠山重篤氏（「牡蠣の森を慕う会」代表）
- 鍛代邦夫氏（日本大学生物資源科学部）
- 松枝修治氏（水資源機構荒川ダム 総合管理事務所長）
- 大島誠一郎氏（埼玉県秩父農林振興センター所長）
- 久喜邦康氏（秩父市長）
- 内藤勝久（NPO法人百年の森づくりの会理事長）

（質問者の皆さん）

- A 佳枝さん（影森中学校）
- O 那意さん（秩父第一中学校）
- A 秀佑さん（秩父第一中学校）
- A 純さん（秩父第二中学校）
- M 朋子さん（秩父第二中学校）

（進行）

田島克己（NPO法人百年の森づくりの会副理事長）

中学生から、①秩父の森林の現状について、②秩父にある4つのダムの水の使われ方について、③秩父の森林は豊かなのかどうか、④秩父のシンボル武甲山は元の森に戻るのか、そして⑤秩父の森づくりには私達はどのように関わっていったら良いかなどの質問に対して、各専門家のパネラーの皆さんから一つ一つ丁寧にお答えいただき、

秩父の森林、荒川の水への認識を高めることが出来ました。僕たち・私たちの未来のために、何が出来たのか、大人も子供も出来ることからやっていくことの大切さを改めて感じさせていただき、成功裡に終了しました。なお、「森を語ろう」シンポジウムの報告書をご希望の方は、事務局にお申し込み下さい。



基調講演 「森は海の恋人」

講師 牡蠣の森を慕う会 代表 畠山 重篤 氏

私は東北地方の太平洋側三陸リアス式海岸の気仙沼で牡蠣の養殖をしています。海で働いている漁師がどうして秩父に来ているか不思議に思いになるかもしれません。

秩父とは、4、5年前からいろいろな形でご縁ができ、特に今日は「森を語る」シンポジウムにお招きいただいた訳です。

「ははその森」 秩父と気仙沼を結ぶもの

秩父神社宮司の蘭田先生と何年前かに知り合いました。秩父神社の森を「柞」ははその森ということを伺いました。

実は、気仙沼は短歌が非常に盛んな所として、落合直文という国語学者で、短歌を作った有名な方の生まれ所です。落合直文の影響

を受けた歌人に、与謝野鉄幹、与謝野晶子、前田夕暮などがおります。

前田夕暮は秩父に滞在して約2000首の歌を作ったことで有名です。この前田夕暮の歌友で気仙沼出身の熊谷武雄という歌人がいて、この代表的な歌に「ははそ」という言葉が使われているのです。

手長野(ながの)に木々はあれども
たらちねのははそのかげは
契るにしたしき

「ははそ」はナラとかクヌギの木の古語だそうです。ナラなどの林の傍に行くとお母さんの傍によつたように心が安らぐという意味だそうです。このことが秩父との接点になった訳です。

森は海の恋人

私は牡蠣の養殖をしながら今までは太平洋の海ばかり見ていたん

ですけれど、ある時、反対側を見ないといけないということに気が付きました。それは、海というものは森林があつて、川があつて、海がある。森林から海への流れの中で牡蠣の餌となる植物プランクトンが増えて、それを牡蠣が食べて育つのではないかと思ひ、20

年前から「森は海の恋人」といって、漁師が山に木を植えることを始めました。

「ははその森」は落葉樹の森ですから、何百万枚の葉っぱが落ちて腐葉土をつくり、腐葉土の中には、川のヤマメやアユの餌になる苔などの養分を育み、それが海に流れてきて植物プランクトンを育てることが分かりました。

木を植える運動するのにキャッチフレーズを考えようとした時に、熊谷武雄の孫で熊谷龍子さんに

会い、森の歌人熊谷さんは森が海に寄せる思いをこう歌っています。森は海を海は森を恋いながら悠久の愛紡ぎゆく

この歌から「森は海の恋人」というフレーズが生まれたのです。20年間毎年木を植えてきましたが、今までに40種類5万本植えたにすぎません。20年経ち、背より高くなり、蝶々とかハチとか虫が増えると鳥も増えてきます。

「ははその森」とは、自然界の母のよういろいろな生き物を育ててくれるのです。そして森は山だけを豊かにするのではなく、川を通して海を豊かにしてくれるのです。





京都大学「森里海連環学」

京都大学では、林学から水産学までを全部一つにした組織を作りました。縦割りの学問ではなく、世界で初めて、「森里海連環学」を立ち上げたのです。理系の考え方ですと、「森里海連環学」ですが、この学問で「里」をいれたのがキーワードです。自然の中に「里」、つまり人間の生活が横たわっているわけです。理系ですが文系もからませているのです。

京都大学である時シンポジウムの講演をきっかけに、その後学生達に講義をするようになりました。また、学生達のフィールドワークするシステムで、「ポケットセミナー」という制度があり、学生達が気仙沼の我が家にやってきて、森林や海で実際に体験していただいています。

植物と「鉄」の役割Ⅱフルボ酸鉄

海の中には植物プランクトンがあり、それを動物プランクトンが食べ、また小魚が動物プランクトンを食べ、大きな魚がまた小魚を食べる、つまり食物連鎖が続くわけですが、最初に植物プランクトンがなければ話にならないのです。

植物プランクトンの成分で、窒素、りん、珪素などのほか、大事なものは「鉄分」です。人体にとっても鉄分は非常に大事な働きをしているのと同じです。地球は「鉄の惑星」といわれるぐらい、3割の鉄で出来ているそうです。

ロシアと中国の国境沿いを流れているアムール川はオホーツク海に流れています。茶色っぽい水です。これは湿地帯と大森林地帯を通ってきているためで、実は森林の腐葉土の中にはフルボ酸とフミン酸という森の養分が溶け込んでいます。これと鉄が結びついて流れており、アムール川の鉄分の濃度は太平洋の外海の濃度の100万倍あるそうです。水に溶けた鉄とフルボ酸が結びついてフルボ酸鉄になり、森林から海に流されてきて海の植物プランクトンを育てるのです。

このアムール川の養分は、オホーツク海に運ばれ、千島列島を通じて遙か三陸沖まで来ているのです。三陸沖は世界の三大漁場の一つと言われています。

森と海の間わり

荒川の水源の「ははその森」、その森林の養分が荒川から東京湾に流れてきて、東京湾の江戸前の

魚介類の元になっているわけですから、三峰神社に行くと築地の魚河岸の旦那方が何万本というたくさんの苗木を寄進している石碑があるのです。森林への感謝の気持ちの現れです。東京湾へ行って海から山を見ると、荒川の上流の母なる山々が見えるそうです。これが信仰の山なのです。

秩父には、秩父神社の「ははその森」があります。そして三峰神社には海の間わりがあります。秩父には海の見えないところまで海の間わりがあるという壮大なコンセプトをもって育んできたものがあります。このような秩父をキーワードにして、今後いろいろな計画を進めていただけたらと思います。

「ははその森」を背景にある秩父だからこそ、日本中あるいは世界中から称賛の声があがるようなことが出来るのではないかと思います。ご清聴ありがとうございました。

キモトタケウラ

会員 大池 靖 司

男子たるもの『ギャー』などと安易に絶叫してはならぬ、とは普段より思いつつもこの時ばかりは発してしまった。11月21日仁田小屋の小屋仕舞いに参加し、作業に取りかかって間もない時だ。台所の洗い場が外にあって、数10メートル離れた山の中腹から導

管を通って清水が涸れることなく流れ込んでいる。シンクのゴミうけに溜った枯れ葉を除こうと手を突っ込んだ時、ヌルツとした感触があった。冷たいながらも体温を感じさせる何かだ。枯れ葉と一緒に取り出した瞬間、その生き物が動きだした。いろ青黒く、四つ足に長い尾っぽ、顔はゴジラ、もう何が何だかわからない。思わずシンクへ放り投げた。体長は20センチまではないようだ。これなら口から火を吹いて攻撃してきても対処できる。しだいに冷静さをとり戻してよく見ると、グロテスクに思えた顔もにくめない。サンシヨウウオか？ いままで水族館の水

槽か凶鑑の中でしか観られなかったものをいきなり掴んでしまったのだ。浅い冬眠を起こされて当人もさぞ驚いたことだろう。未知との遭遇が不幸な殺戮に発展しなかったことを喜び、導管をつたう前の溪流に帰してやった。

当日の作業は、ブナ平一步の森と仁田の頭の植林観察、小屋周辺の整備、まき割りなど。晩秋の夕暮れは早い。早めに作業をきりあげて、夕食の準備だ。ランプを灯し、ストーブにまきをくべる。暖かくなるとストーブのまわりにしだいに人があつまり、酒ビンを傾け、また熱いレトルトカレーを食べる。確かに大したつまみや食事でないが、しかし家庭の食卓とも違った暖かさがある。ランプとまきストーブがかもし出す空間と時間から来るのかもしれない。いずれも遠い昔に捨て去ったもの、忘れてしまったものである。

こんな場での語らいはやはり昔

話がふさわしい。昼間のまき割りの話題になった。確かにまさかりを使ったことはある。身の安全と刃こぼれには注意する。あとは力任せに降り下ろす。これがブツブツなのだ。上手に割るには『キモトタケウラ』、割ろうとする木の天地をみて置けと先輩が言う。つまり木は根元を上にして割り、竹は逆に成長点を上にして置くとスムーズに割れるということらしい。『木元竹裏』か。つづいて出た言葉が『カカトウジヨウ』。ヒントはヘツツイというが、ヘツツイそのものが落語の中ぐらいしか出てこない言葉で、ヒントにさえならない。よく聞くとかまどの焚き付け方が夏と冬では違うと言うのだ。『夏下冬上』か。空気温度の違いで火付け位置が変わると言うことらしい。

ランプもまきストーブも日常生活から消えた。こんな四文字熟語みたいな知恵も消えた。動植物の

絶滅危惧種問題は結構ニュースになっているが、それと表裏一体の消えてく生活文化のことはあまり活字になることが少ない。幸いエコ意識の高まりで、まきストーブが復活の兆しをみせているらしい。キモトタケウラもカカトウジヨウもサンシヨウウオのように遅く生き残ってもらいたいと思う。その夜ゆめ枕にサンシヨウウオはあられなかつたので、多分雌ではなかつたのだろう。



平成21年エコサロン冬の講座講演会
平成21年12月12日(土) 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

『根っこから考える環境問題』

埼玉大学名誉教授 豊岡了先生

《菌根菌と共生するアカマツの実生の根の伸びを精密に測ることによって、生態系の営みを垣間見ることが出来ます。これを手がかりに、植物が豊かな自然環境の形成と安定に果たしてきた重要な役割を、もう一度一緒に考えてみたいと思います。》

「ゆらぎ」についてお話しすると、「ゆらぎ」はブレです。「ゆらぎ」は特にサイエンスでは嫌われる。サイエンスでは、「ゆらが無い」信頼性とか客観性とかそういうものを追求するがあまり、「ゆらぎ」というものを排除していく。しかし、「ゆらぎ」を排除すると何でも感動のない世界になってしまう。ですから「ゆらぎ」は非常に大事だということです。

植物と動物とはそもそも何かというと、生存戦略が異なります。植物は光合成をして物質を造る。物質を造ることが出来るのは実は植物だけなんです。動物は何かというと、植物が造ったものを食べる。あるいは植物を食べた動物を食べる。だから生態学の分野では、植物は生産者、動物は消費者といわれている。人間も消費者です。もう一つ分解者とい

うものがあります。

今、環境が問題になっていますが、もし異常が起きた時に、植物はどうするか、植物は戦略として動かない。動かない方がいいんです。何かかというのと、CO₂もH₂Oもどこにもある。どこにでもあるものを取るために動き回るといことは、エネルギーロスですから、じっとして出来るだけ葉っぱを大きくしてそしてほかの植物に負けないように太陽の光を早く採った方が勝ちという戦略です。動物の方は、何か異変があつたならば、逃げれば良いということ、植物は異変があつても逃げられませんから、環境に順応して自分自身を変えていくということです。

植物はいつも動いています。動いているということは、移動するという意味ではありません。これは、じっとしているのですが、いつも動いている。生長して伸びている。植物の動きについては、いろいろな研究があります。よく知られているのは、光の刺激に感じて動く光屈性とか重力屈性です。光の方向を向いて動く、これは植物アルゴンの作用で、一種のセンサーがあつて、光の方向を感知して動いている。それ

から、重力を感知して、根が地下の方に行くのは重力屈性という。その他に、刺激の方向に関係のない動きとしては、催眠運動とかをネムノキが行います。もう一つ、刺激に関係の無い自発的な動きをおこなうものもあります。シロイヌナズナというペンペン草ですが、生長するときにグルグル回りながら生長する。実はシロイヌナズナだけでなく、ほとんどの植物がこのようにグルグル回りながら生長しています。一周する時間は、サンプルによって異なるのですが、だいたい100分ぐらいです。ですから、見ていると回っているようには見えない。実は植物が伸びるときは必ずグルグル回旋しながら伸びています。ダーウインは、植物はいつも最適条件を見つけて落ち着けるように、いつも動いていると言っている。すべての植物の運動は、回旋運動が基であると言っている。面白いのは、夜、日の光らない所でやってみると回旋運動がどんどん大きくなる。光のある所を探しているのではないかという議論をしたことがあります。

植物は動き回ることによって、環境に適応するための最適な状態を模

索していることがマクロの実験で見取れます。植物の動きをナノメートルレベルで観察すると、植物は決してすすくとスーと生長しているのではなく、ガタガタ、ガタガタと「ゆらぎ」ながら生長していく。元気な状態であるほど「ゆらぎ」が大きい。菌根菌と共生することによって、植物の根の生長速度が大きくなると同時に、「ゆらぎ」も大きくなります。菌根菌と共生している根は、オゾン曝露ストレスに対する耐性が大きいです。環境が悪くなっても頑張れます。植物がオゾンストレスで受けるダメージはニラの実験では長時間、数日間持続します。

地球温暖化問題が大変議論されていますが、とても大事な問題だと思いますが、私は個人的には、汚染の問題が非常に重要であると思います。

植物と動物がどのような働きをしているかというと、植物が生産者で、動物が消費者、地中の微生物、バクテリア、菌類は無機物に分解する。このことが大事です。これらの分解が行われないと、地球上の木が倒れると、それを分解するものが無いのですから、二酸化炭素は減りませんけれども、ゴミだらけになってしまう。

ここで分解されて無機化されて二酸化炭素と水になる。このような循環が、炭素循環です。

現在、近代科学、科学技術、科学的にとか言われますが、それは全て石油エネルギーです。今、我々が使っているエネルギーは全て石油エネルギーです。原子力は脇においておきますと、石油エネルギーは何かというところ、太古の昔に植物が造ったものです。貯めたものです。それを今、我々は使っている。ですから、偉そうなことを言っている。科学技術で何でも出来ますという夢を抱かせるのですが、実はそれは植物なのです。自動車に乗ってガソリンを使います。ガソリンを使うことは、昔々の植物を使うことなのです。当たり前のことですが、意外とそのような視点が無いような気がします。化石燃料を使って、人間は活動している。化石燃料・エネルギーを使えば何でも出来ますが、その時に廃棄物が出ます。しかし残念ながら、菌がいませんで廃棄物はどんどん貯まるばかり、そして人間が新しく化学物質を沢山造りますから、怖い化学物質が沢山出来て、まず植物がやられて、次にそれを食べる動物がやられてしまう。地球温暖化問題ですが、地球温暖化は進んでいます。大気中の二酸化炭素も増加しています。しかし、その原因とか対策については、いろいろな意見があります。これから更に

温暖化が進むと、ひどいことになってくる、これは間違いないことである。間違いないことは、温暖化によって森林が無くなることです。炭酸ガスは文明前の0.028%から0.038%になった。わずか0.01%の増加です。自然林は文明前の八千年前に比べ3分の2が消滅し、50年後には自然林が完全に消滅してしまう国が出来てくると警告されている。これは、深刻な問題であるが、このような問題を議論しないのはどうしてなのだろうか。

温暖化の問題は確かに大事なことで、温暖化をくい止めなければならぬ、しかしもっと大事な問題として森の問題がある。

さらに、森林があっても食物連鎖による生物濃縮、これは実は今、非常に深刻で大変な問題である。大型動物は生物濃縮の最終段階ですから、問題になってくる。植物は、体内濃縮を行わない。植物は器官が無いからです。植物は、根と茎と葉しかない。動物は器官があり、そこに濃縮される。大型動物ほど、生物濃縮が行われる。動物には着実に環境汚染が進んでいる。これは、一つには汚染物質を排出するからです。汚染物質を排出しないためには、今、世界で取り組んでいる取組みを真面目にやらなくてはならない。

もう一つは、森林が駄目になってきている。生物多様性は「ゆらぎ」

そのものです。会ってみると、みんな違う、それと同じで生物は一匹一匹、個性がある。生物の多様性が低下していると言われている。多様性には、よく階層がある。いろいろな階層で多様性が大事である。もつと大きなレベルになると、人間が生きていく社会とか、景観とかそのようなレベルでの多様性もふくまれる。

生物の絶滅速度も相当早くなってきている。すごい勢いで絶滅してきている。二酸化炭素は、0.01%増えただけだが、生物の絶滅はもつと深刻になってきている。絶滅の原因は、開発による地域の破壊、化学物質や放射性物質による汚染、人間による外来種の導入、遺伝子汚染その他にもある。植物は、ハチとか鳥が花粉を運ぶことによって生物の多様性「ゆらぎ」を大きくしている。そのようなことがとても大事である。大事なことがだんだん無くなってきている。

環境問題の中で、一番大事な視点は、生き物と仲良くしながら生きていくことを日常の中で、街の中にも体験し理解できるようにすることが大事だと思います。

今の一番先端のサイエンスは、「ゆらぎ」であります。「サイエンスは四角四面で何も動かない」ではないと言わせたいたく。

いろいろな「ゆらぎ」があるが、自然の全体として認めていくのが宮

澤賢治ではないか。

森のサービスには、どのようなものがあるかというところ、大気に酸素を供給し、炭酸ガスを固定する。さらに、木材、用材など森林の生産活動。また、山は水を貯える役割がある。野生動物の棲みかとしても。

私はもう一つ付け加えさせていた。私達、人は地球上で生態系の一部を担うにすぎないことを自覚して、自然に感謝する、謙虚な気持ちを持って生きていけないものだろうかと思えます。

環境を破壊することは、二酸化炭素が増えて地球温暖化が進むので問題ですが、これよりも生態系が劣化していくこと自体を問題にしてもいいのではないかと私は考えます。

私達、人は地球上で生態系の一部を担うにすぎないことを自覚して、自然に感謝する、謙虚な気持ちを持って生きていけないものだろうかと思えます。

(文責 事務局)



2009年度下半期 和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

今年は天候に恵まれ、上半期と同様に下半期の事業も滞りなくというより、大きな成果を上げられたと思っっています。参加された方々には大変お世話になりました。今後ともよろしくお願ひいたします。さて、今年度下半期の事業報告をいたします。

修復前



第25回和名倉山1000年の森ワークショップ事前準備(埼玉岳連による下草刈り) 【09・9・12〜13】
参加者は岳連メンバー4名、高校生1名と高岡です。12日は雨模様だったので、下草刈りは中止して、小屋手前の崩壊したブナの仮植地の修復をしました。

修復後



翌13日は晴れ上がり、予定の仁田小屋の頭下を60坪ほど刈り込みました。3時間ほどの作業でしたが、きれいに刈り込み、ワークの準備万端となりました。今回参加された岳連のメンバーには87歳の方もいました。後で聞いてびっくりです。

第25回和名倉山1000年の森ワークショップ 【09・10・10〜11】

今回は久しぶりに大勢の17名参加となりました。そこで、当初50本程度の植林の予定を1000本とすることにしました。(実際は110本)準備が万全だったので、

鹿よけネットの「くわんたい」の支柱が足りなくなり通常2本使うところを1本でネットを支えることにしました。2日目には一歩の森のブナを観察に行ったところ、ほぼ順調に育っていました。また、一歩の森の周辺にヤマブドウの木とサルナシの木を見つけました。いずれも鈴なりになっていて、皆で秋を味わってきました。参加者のうち2人が和名倉山頂まで行き、観察してくれました。例の「仁田小屋登山道」という道標が6カ所あったそうです。

さらに今回は、夏に亀裂が入った小屋下のフォレストベンチを施工業者に見てもらいました。簡単

な修復で完了しました。フォレス
トベンチの有効性は実感できたの
ですが、今後どのようなところに
設置するかなどは、資金も含めて
いろいろ考えていく必要があると
思います。



和名倉山仁田小屋仕舞い

【09・11・21～22】

21日は小屋の修復作業を行
いました。まずは、小屋の土台作り
の際に使ったウレタンを小屋の寝
室部に引き詰めました。これによ
って冬でもマットなしで休めると
思います。また荷物置き場2段と
調理台を作りました。荷物が整理
されスペースが広くなり、快適に
過ごせるようになりました。さらに、
一冬分の薪も割りました。今回の
参加者は8名でしたが、手際よく
できました。

22日は和名倉山頂ま
で観察にいきました。歩
程としては登り4時間、
下りは私が足を引く張っ
た分時間がかかり3時間
でした。天気予報ではあ
まりよくないという予報
でしたが、メンバーの日
頃の行いの良さからか、

少々あられに降られました。雨
になることはなく登頂できまし
た。藪はだいぶ払いましたが、まだ若
干残っています。来年早いうちに
きれいにしたいと考えています。
けるようにしたいと考えています。

前記述以降の和名倉山の情報

和名倉山仁田小屋尾根ルート

【09・12・12～13】

今年は12月に秩父地方にも積
雪がありました。そこで私(高岡)
の勤めるいずみ高校の山岳部の生
徒を積雪期登山として和名倉山に
案内しました。仁田小屋ではチェ
ーンソーと斧で薪割り体験をし
ました。生徒たちは初めての体験で
感動していました。翌日の和名倉
山登山では、今年植林した苗の状
態を確認しました。すでに鹿?に
頭をかじられている苗もありま
したが、多くはしっかり立ってい
ましたので、来年葉の出るのを期待
したいと思っています。仁田小屋
の頭以降は、懸念したとおり、若
干残っている笹藪の上に雪が乗り、
ルートをふさいでいる箇所が結構
ありました。下りでは歩きやすい



ところを探しながら歩いたので、
だいぶコースを外れてしまいました。
登山道として公開はしていませんが、
ここまで開いた作業道ですから、
もつと安全に歩けるようにしなけ
ればならないと感じました。山頂
は相変わらずの視界のない状態
ですが、むしろ以前より明るくなっ
たように感じました。山頂を越え
て展望台に出るとガスでいっそう
視界がなく、強風が吹き荒れ、直
ちに退散することになりました。

冷蔵苗製作報告

2009年12月6日(日曜日) 晴れ 長瀬苗畑午前9時集合 常務理事 野澤和雄

11名の会員が冷蔵苗作りに日大の鍛代先生、斉藤真成美助手指導の元、快晴の長瀬苗畑に午前9時に参集いたしました。

目標は、冷蔵苗づくりのコツの会得と冷蔵庫にどんな風に保存させるのか学習確認することです。鍛代先生に苗畑の撫の様子を確認してもらい来春植林予定の100本を5本を1束にして20束製作する為、数人一組で作業に入りました。

「掘起し班」「荒シートと結束縄を用意する班」「苗を整形して被覆シートを破らないように結束する班」「シートを被せる班」全員、効率よく働いて1時間位で整頓した苗束が20束できました。軽トラックに移し替えて冷蔵庫の設置してある野澤屋へ向かいました。到着後、全員で2坪のプレハブ冷蔵庫と内に収蔵した11月に予備製作した2束の冷蔵苗を観察しました。即、収納作業を10分程で完了いたしました全員で記念写真を撮つ

て終了いたしました。

覚書(確認事項)

植木屋は、春先までならば移植するが初夏以降にはやらないという。特に落葉広葉樹は、葉の展開後に移植すると枯れる可能性が高い。それは根が葉の展開直後に新しい白根を伸ばし始めることによる。

冷温貯蔵

苗木の成長休止期に苗畑から掘り上げ休眠維持するように冷蔵庫に収納しておき必要なときに庫外へ取出し温度上昇によって休眠を打破させ植栽に用いさせようとするものです。

掘上げ時期

2月が適当。

10月では、緑葉が多く残って



作業上扱いにくい。3月～4月になると早めに休眠を打破して冬芽の膨らみがみられるようになり貯蔵すると冬芽の欠損や冷蔵庫内で展開する危険性あり。

貯蔵開始にあたっては

苗木の束を強く締め小さくする。枝・根に突起状のものがあつたら缺でカットしシートを破らないようにする。

(ブルーシートで荒包みしたものを通気のないビニールの袋に包み空気を抜いて4, 5ヶ処しぼる。) 袋の中で苗木の水分が蒸発しビニール袋の壁を伝って底に落ち根の部分に集って又、再び苗に湿気を与えような循環を保つ状態(シズクが底にたまる)よう袋包み結束



束する。

植栽の時期の確認

4月～8月に植栽した苗は枝葉の展開と冬芽の形成をなし霜、雪害を除けて肥大し翌年の成長冬芽を形成できた。

9月以降の植栽苗は霜、雪害を受ける可能性が高い。(9月以降の植栽はやめたほうがよい。)

待望の水遣り施設を設置

セブニーイレブンみどりの基金の助成金により、長瀬苗畑に待望の水遣り施設の設置と育苗のためのよしず小屋の改修工事を実施することができました。

水遣り施設は、当初考えていたよりも、井戸が深く、購入したポンプでは汲み出すことが出来ませんでした。そこで、水中ポンプ・ポリタンクを追加購入して、水遣り施設を完成することができました。また、よしず小屋の高さを高くする改修工事を行い、お陰さまで苗畑での育苗作業が楽になりました。感謝、感謝です。



2010年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動			苗づくり	エコサロン他
		和名倉	山吹沢	長瀬宝登山/大陽寺		
4	■会報19号発行 ○4/19(月)常務理事会	□仁田小屋小屋開き 日時：4/3(土)～4(日) 集合：8:30/西武秩父駅	○第11回荒川源流 森づくり体験 日時：4/11(日) 集合：8:30/西武秩父駅		◇長瀬苗畑作業 日時：4/18(日) 集合：9:00/野上駅	○埼大エコサロン 日時：4/22(木) 16:00 場所：百年の森テラス
5	●5/17(月)理事会 場所：教育会館 ■第3回通常総会・記念講演会 日時：5/30(日) 14:00～ 場所：別所沼会館 14:00～14:50 第3回通常総会 15:00～16:30 記念講演会 16:45～18:30 懇親会	◇第26回和名倉山ワーク 日時：5/22(土)～23(日) 集合：8:30/西武秩父駅			◇長瀬苗畑作業 日時：5/16(日) 集合：9:00/野上駅	◆第11回春の公開講座 清里キープ協会を訪ねる 日時：5/8(土) 集合：10:30/清里駅集合 ○埼大エコサロン 日時：5/20(木) 16:00 場所：百年の森テラス
6	○6/19(土)常務理事会		○山吹沢下草刈り作業 日時：6/26(土) 集合：8:30/西武秩父駅	□大陽寺下草刈り作業 日時：6/27(日) 集合：8:30/西武秩父駅	◇長瀬苗畑作業 日時：6/13(日) 集合：9:00/野上駅 ◇長瀬苗畑作業 日時：6/19(土) 集合：8:00/西武秩父駅	○埼大エコサロン 日時：6/24(木) 16:00 場所：百年の森テラス
7					◇長瀬苗畑作業 日時：7/11(日) 集合：9:00/野上駅	○埼大エコサロン 日時：7/22(木) 16:00 場所：百年の森テラス
8	○8/22(日)常務理事会 場所：長瀬			◇宝登山下草刈り作業 日時：8/22(日) 集合：9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		○埼大エコサロン 日時：8/26(木) 16:00 場所：百年の森テラス
9						■百年の森ふれあい コンサート 日時：9/12(日) 14:00～ 場所：皆野文化会館 ○埼大エコサロン 日時：9/24(金) 16:00 場所：百年の森テラス
10	■会報20号発行 ○10/18(月)常務理事会	◇第27回和名倉山ワーク 日時：10/9(土)～10(日) 集合：8:30/西武秩父駅	○第12回荒川源流 森林保育作業 日時：10/31(日) 集合：8:30/西武秩父駅		◇長瀬苗畑作業 ドングリ拾い 日時：10/17(日) 集合：9:00/西武秩父駅	○埼大エコサロン 日時：10/21(木) 16:00 場所：百年の森テラス
11	●11/15(月)理事会 場所：教育会館	□仁田小屋小屋じまい 日時：11/20(土)～21(日) 集合：8:30/西武秩父駅				◇百年の森交流会 日時：11/3(水) 12:00～ 場所：埼玉大学 ○埼大エコサロン 日時：11/25(木) 16:00 場所：百年の森テラス
12	○12/20(月)常務理事会				◇長瀬苗畑作業 ブナ苗掘取り、冷温保存 日時：12/5(日) 集合：9:00/野上駅	◆第12回冬の公開講座 日時：12/11(土) 会場：大宮ソニックシティ ○埼大エコサロン 日時：12/22(水) 16:00 場所：百年の森テラス



「和名倉山」

和名倉百年の森 第19号 2010年3月31日発行

発行者：NPO法人百年の森づくりの会 内藤勝久

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂三丁目12-9 農林会館地下1階 TEL/FAX：048-831-1469

<http://www.100nen-forest.org> e-mail：info@100nen-forest.org